

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470201419
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ大街道グループホームサンフラワー
所在地 (電話番号)	宮城県石巻市大街道北二丁目2-27 (電 話) 0225-92-5575

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 1 月 20 日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大街道じゅんクリニック、 ササキ歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた町並みの一面に広い敷地があり、同法人のデイサービスセンターと並んで平屋の2ユニットのホームがある。近くにファミリーレストランやスーパー等も有り外食や買い物にも便利である。地域密着型事業所として皆で話し合い理念の見直しをし文言を追加した。「……地域との共生を図り皆さんに気軽に立ち寄って貰えるホームを目指す」としている。宮城DCクリーンアップ大作戦に道路清掃活動として事業所も参加している。「職員の方が一つになって入居者一人ひとりに適した介護をして下さっており、入居者の気持ちやできる事を上手に活用させて頂き、本人達も皆のために洗濯物をたたんだりボタンをつけたりして満足した姿が見られます。」(家族アンケートのコメントより)

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題「理念の見直しは」地域密着型事業所として皆で話し合い「地域との共生を図り」を追加された。○運営推進会議が平均4ヶ月に1回開催されていたが、基準省令にあるように現在は、おおそ2ヶ月に1回開催されている。○第三者委員については管理者も変わり、具体的にこれから進めたいとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は、計画作成担当者が中心になってまとめられたが、職員一人ひとりが設問項目一つひとつを点検し、それぞれの「気付き」を出し合って皆で話し合い、課題を共有する事が充分とは言えなかった。自己評価は基準省令の義務条項でもあり、できるだけ時間を調整し皆で充分話し合っていたきたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回開催されている。推進会議では入居者のホームでの生活を報告し、それに対し質問や助言を頂いたり双方向性の会議になっている。メンバーの皆さんには認知症に対する誤解や偏見を無くし、ホームの良き理解者であり協力者になって頂いている。入居者本人や知見を有する人もテーマによってはオブザーバーとしての参加もしていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「相談や苦情はサービスの向上にとって貴重な情報源である」事を事業所はよく理解している。ホームの窓口や市や国保連の窓口等公的な第三者機関の連絡先などは、重要事項説明書に記載されている。尚、身近で気軽に相談できる第三者委員については具体的にこれからお願いしたいとしている。委嘱後は、重要事項説明書にも記載しその事を繰り返し家族にお話しして頂きたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所として、理念に「地域との共生を図り」と追加したように、地域との交流を通して社会と隔離される事無く生活したいと努力している。町内主催の防災訓練や盆踊り、花一杯運動、小学校の行事等に積極的に参加したり、石巻中学校や門脇中学校の職場体験等も受け入れ交流をしている。また、入居者が隣のデイサービスセンターに行き地域の人やボランティア(歌、踊り等)と一緒に楽しんだり交流している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所としてどうあるべきかを、職員皆で話し合い地域との関係性の大切さを理解し、「基本理念」に「地域との共生」の文言を付け加え、地域の人達が気軽に立ち寄って頂けるホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は行動する為の規範である。理念は実践されてはじめてケアに活かされる。毎朝のミーティング等で職員は理念の思いを共有し、地域の人と交流しより良いケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	宮城県のDCクリーンアップ大作戦に、道路の清掃活動として事業所も参加した。町内主催の防災訓練や夏祭り、花一杯運動、小学校の行事等にも積極的に参加し地域との交流を進めている。また、歌、踊り、詩吟、ハーモニカ等のボランティアと入居者が一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は計画作成者が中心にまとめられた。職員にも話しはしているが、職員一人ひとりが評価項目を一項目ずつを点検しそれぞれの「気付き」を皆で、持ち寄っての話し合いは充分とは言えない。	○	自己評価は、自ら提供するサービスの質を点検し、常に改善をしなければならないと、している基準省令の義務条項の主旨を今一度皆で考えて頂きたい。各ユニットそれぞれのケアの良さをお互いに参考にし共有していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2ヶ月に一回開催されている。会議ではホームの生活状況等を報告し、皆さんから質問や助言を受けたり双方向性の運営推進会議になっている。また、会議を通してメンバーの皆さんには、認知症に対する誤解や偏見を解きホームのよき理解者であり協力者になって頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価に市の担当者も同席し、評価調査員と一緒に管理者の話を聴いたり、情報を共有する姿勢が見られた。事業所では、運営上不明な点はその都度市の担当者に確認している。また、市主催の東京センター方式の研修会等には事業所も積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームは家族的で訪問しても気持ちよく長時間おしゃべりもでき、本人の様子等も話してくれます。」(家族アンケートより) 毎月「サンフラワー便り」を発行し、入居者の様子等を写真入でお知らせしている。また、個々の健康面の変化等はその都度家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、「相談や苦情はサービスの向上にとって貴重な情報である」事を理解している。運営推進会議や家族が訪問した時も意見を聞くように努力をしている。尚身近で気軽に相談できる第三者委員を、運営推進会議のメンバーにお願いしたいとしている。委嘱後は重要事項説明書にも記載をしていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の方は「馴染みの場所、馴染みの物、馴染みの人」によるケアが基本である事を管理者や職員は理解しており、職員の異動はできるだけ最小限にしている。また、異動の時は引継ぎを充分にし、入居者が混乱を起こさないように努めている。尚、職員の異動は早く家族にも知らせ、理解と協力を得ていただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員の資質の向上の為に研修の機会を、与えなければならぬ」という基準省令の義務条項を理解している。本社の指導で研修計画を立て、それぞれの部門単位やユニット単位でも勉強会等を実施している。尚、本社の巡回研修で、認知症ケア、身体拘束廃止、高齢者虐待、接遇のマナー等の研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会の研修や実践報告会、交流会等に参加し、知識やケアの技術の向上だけでなく職員間の交流も深めている。また、法人のグループホームとも定期的に勉強会を持ったり情報の共有もしている。尚、今後とも他のグループホームの見学や交流等も積極的にしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がある日突然知らないホームに入れられたという思いを少しでも少なくするよう、入居前にスタッフが会いに行ってお話をしたり、来て頂いてホームの生活の様子を見てもらい、状況によってはショートステイを利用する等、いろいろ努力をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、できるだけ「一緒に、ゆったり、楽しく」生活ができるよう支えあう関係が出来ている。高齢者は知恵袋とも言われており、残された能力を引き出しながら一緒に作業をする事で(畑仕事、家事、趣味など)職員はいろいろ教わる事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの「思いや意向」を把握し、その情報を職員が共有しケアする事が、チームケアの基本である。その人の生活歴や人生体験などを本人や家族、関係者に聞いたり、また、お風呂や散歩などで入居者と職員がしみり話し合ったり、何気ない会話から思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たっては、日ごろの関わりの中で本人や家族の意見を聞き、関係者でカンファレンスをして作成している。計画は個別具体的で、短期長期の目標を立てている。介護計画は、家族に説明し同意を得て渡している。尚、遠方の家族からは電話でお話を聞いているが、十分とは言えない課題がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、脳梗塞やガンの対応など必要に応じて緊急にも見直しをしている。定期的見直しは、月1回関係者でカンファレンスをし必要があれば、計画の見直しをしている。尚、見直しをした介護計画も家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の便宜の提供として、本人や家族の希望によって「透析」の送迎や、気に入った美容院に搬送したり柔軟に対応している。また、小規模多機能事業のようにできるだけロケーションダメージを少なくするよう、ショートステイを活用しそれから入居する等の対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医への送迎をしているが、可能な限り家族の同行をお願いしている。病状等の状況を、家族も職員と共有するようにしていただきたい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や通院などの、医療や看護に対する信頼の延長上に重度や終末のあり方が問われる。「重度や看取りの指針」によってできる事できない事を含めて、早い時期から本人や家族と話し合い「意思確認書」等も検討していただきたい。	○	入居者や家族から、「重度や看取り」についてアンケート調査の内容などを含め、運営推進会議で意見を聞いてアンケートを実施し、その結果も運営推進会議に報告し、本人や家族の意向を尊重しながら看取りについて対応したいとしているので十分に検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症高齢者の人権やプライバシーの尊重について、研修等で意識の向上を図っている。入居者の呼び名もチャン付けでなくその人の希望する、姓や名前にさんをつけて呼んでいる。言葉にしても日常語でゆっくり話している。個人情報の保護については、家族に説明し同意を得ており職員もその事を理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしの支援は「個別ケア」の基本である。その人の生活のペースやリズムを尊重してケアをしている。起床にしても朝食にしてもばらばらで、朝食も6時から8時位で遅くなると10時のおやつで済ます人も居る。外出等も、希望によって参加する人参加しない人それぞれ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を美味しく楽しいものにするよう工夫している。入居者と一緒に食材を購入したり、会話をしながら調理の下ごしらえをしたりしている。職員も同じ物を食べ、声かけをしながらさりげないサポートをして和やかな雰囲気であった。また、誕生日や花見などの行事食や、月1回のファミリーレストランでの外食も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は今までの衛生的な配慮だけでなく、入りたい時にゆっくり、気持ちよく入って頂ける様工夫している。菖蒲湯、ゆず湯、湯の華等昔の風習等も取り入れている。又、その日の疲れを癒しストレスを解消し、安眠に繋がるよう夜入浴する入居者も居る。入浴を拒む人には上手に話し掛け誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が、人のお役に立ち少しでも生き甲斐につながり、生きていて良かったと思っ貰えるよう、農作業だったり家事だったり趣味等を通して、得意なものや好きな事をして頂いている。片手が不自由でも折り紙で上手に「ごみ入れの箱」を作って皆に喜ばれ感謝されている入居者も居る。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、気分転換やストレス解消になり、精神衛生上もよく生活の範囲も広がる。季節によって湯殿山神社に初詣に行ったり、花見だったり月1回はドライブしたり出かけている。又その日の入居者の希望で、散歩したり買い物に出かけている。車椅子の人でも、本人の拒否が無い限りで出来るだけ出かけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵を掛ける事は、閉じ込めとも拘束とも言われその異常性について職員は、理解し日中は鍵を掛けていない。徘徊気味の人には声掛けや見守りや一緒に出かける等対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	宮城県は、何時大災害が起きてもおかしくないと言われている。また、最近が高齢者施設で人手の少ない夜間の火災で死者や重傷者をだしており、消防局の特別査察で「夜間の避難の手順を確認したい」としており、夜間を想定した避難訓練もお願いしたい。	○	マニュアルは有り、消火器等の点検もしており非常食の備蓄もあるが、夜間想定避難訓練はこれからである。誰がその時の担当でも手順がわかるように、出来るだけ繰り返し訓練をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握しながら食事は美味しく食べやすく、状態に合わせて細かに刻んだりトロミをつけたりして提供している。体重チェックは毎週、食事や水分の摂取量は毎日チェックしている。栄養のバランスは併設のデイサービスセンターの栄養士に定期的に見て貰うよう検討したいとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると段差も無く、一寸した季節の物を置くなど入りやすい雰囲気であった。室内全体が明るく臭気や空気のよどみのようなものは感じられなかった。温度も湿度も管理されトイレも綺麗で衛生的であった。居間兼食堂は正月の飾りなど季節を感じる物で賑やかであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の居場所として、ほっとする空間になるよう家族に協力をお願いしている。今までの環境に近づけるよう、馴染みのもや大切なものを持ち込んで頂くようお願いしている。ちゃぶ台、寝具、家具、家族の写真、テレビ、位牌等が持ち込まれていた。朝位牌にご飯をあげ手を合わせている入居者も居られる。		